

Premix 解析 サンプル調製のガイドライン

テンプレート DNA : 品質の重要性

◇テンプレート DNA の品質が低い場合、解析結果に影響を及ぼすことがあります。(バックグラウンドが高い、ピークが重なる、シグナルが弱いなど)

◇テンプレート DNA は市販の精製キットによる抽出・精製を行ってください。

◇PCR 産物は、PCR 反応後、電気泳動によりシングルバンドであることをご確認いただき、精製キットにより、未反応のプライマーや dNTP 等を除去してください。

*PCR 増幅用プライマーが残っている場合、波形の重なりが生じます。

*dNTPs が残っている場合、反応試薬の組成が崩れ良好な結果が得られにくくなります。

テンプレート DNA : 使用量の重要性

テンプレート DNA 使用量が適当でないと、解析結果に影響を及ぼすことがあります。

◇多すぎる場合、読み始めのシグナルが強く、解読距離が短くなる場合があります。また波形ピークが検出限界を振り切り、正確に塩基を読み取ることができません。

◇少なすぎる場合、シグナルが弱く、信頼性が低いデータとなります。

弊社ではこの場合、サンプル取り込み量（インジェクション条件）を変更し再泳動を行い、より良いデータのご提供を心がけております。しかしながら再泳動の数が多い場合、予定通りの納期でデータをお届けできないことがあります。お客様には、正確なサンプル調製をお願いいたします。

Premix 解析サンプル調製について

反応組成

Plasmid		300-600ng
PCR産物	100-200bp	2-6ng
	200-500bp	6-20ng
	500-1000bp	10-40ng
	1000-2000bp	20-80ng
	>2000bp	40-100ng
Primer		6.4pmol

①テンプレート DNA を調製後、必ずアガロースゲル電気泳動を行い、濃度既知のサイズマーカーとの比較により濃度を測定してください。* 吸光度測定のみでは正確なテンプレート濃度を知ることができません。

②以下の通り、テンプレート DNA と解析プライマーを混合後、14ul に調製してください。* シーケンスプライマーは1サンプルに1種類混合してください。

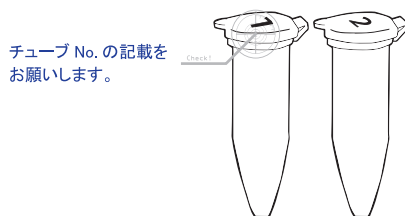
(例) プラスミド DNA 濃度 100 ng/μl、プライマー濃度 10 pmol/μl の場合

DNA 4 μl (400 ng) + プライマー 0.64 μl (6.4pmoles) + 滅菌水 9.36 μl を 1 チューブに分注 (total 14ul)

Premix サンプル容器について

「Premix シングル」は 1.5ml チューブ、「Premix 8 連」は PCR 用 8 連チューブ、「Premix プレート」は 96 穴プレートへご調製下さい。

1.5ml チューブ



8 連チューブ

